



2022年8月12日

各位

会社名 株式会社エンバイオ・ホールディングス
代表者名 代表取締役社長 西村実
(コード番号: 6092)
問合せ先 経理部長 長谷川忠玄
(TEL. 03-5297-7155)

連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、直近の業績動向を踏まえ、2022年5月13日に公表いたしました2023年3月期(2022年4月1日～2023年3月31日)の連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 2023年3月期の連結業績予想値の修正(2022年4月1日～2023年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (2022年5月13日公表)	百万円 8,481	百万円 609	百万円 461	百万円 268	円 銭 40.48
今回修正予想(B)	8,377	841	710	315	47.43
増減額(B-A)	△104	232	248	46	
増減率(%)	△1.2	38.1	53.9	17.2	
(参考) 前期連結実績 (2022年3月期)	8,987	1,229	1,197	654	98.44

2. 修正の理由

(売上高)

ブラウンフィールド活用事業(以下、BF事業)において、第1四半期連結累計期間で販売した全ての物件の売却価格が当初想定を上回りました。他方、土壌汚染対策事業において、土地価格の高騰に加え、インフレによる建築資材等の高騰が相まって、顧客の開発計画が消滅する案件や先延ばしとなる案件が散見される等足元の受注環境が悪化していることから、第2四半期以降の受注が鈍化すると判断しました。これにより、売上高は前回発表した予想値を下回る見込みとなりました。

(利益)

BF事業において、物件の売却価格の上昇が利益を押し上げ、物価上昇や金融・為替市場の変動など世界経済の下振れリスクを抱えながらも、今後も引き続き不動産マーケットは堅調に推移すると思われることから、利益面は前回発表した予想値を上回る見込みとなりました。

一方で、第1四半期連結累計期間において、為替相場の急激な変動に伴い、為替差益103百万円計上しました。これは主に、当社グループが保有する外貨建資産を期末時点の為替レートで評価替えしたことにより発生したものです。当社グループの想定為替レートは期初の想定から変更しておらず、当該為替差益は第2四半期以降減少する可能性が見込まれるため、現時点で業績予想には織り込んでおりません。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大における業績への影響は軽微であります。

(注) 上記に記載しました予測数値は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予測数値と異なる可能性があります。

以上